

会報 100 号を記念して

3班 森 元彦

私が手にした最初の会報は、平成 23 年 4 月 6 日第 46 号でした。

「大震災に遭って」と題して、1 ページにわたって載せておられました。(その日 3 月 1 日安心館で事務局会議をしていた時、「あゝ地震だね」と誰かが云いました)それが『東日本大震災』の始まりでした。

その時の状況が描写されていて、その場に居合わせた方々の様子が手に取るように判りました。その続きで「困難や悲しみの中にある人の心を受けとめ共感して心をお返しするのが愛である」とすばらしい人間愛を語っておられました。

こうした文面に接して感動し共感を憶え、その後今日まで様々な方々の意見や思いを載せて頂き、会の運営になくてはならない、正に健歩会の歴史書を物語っていると思います。

第100号の会報

3班 加藤宏子

今月の会報100号記念に Uji 健歩会の年月を感じます。

毎月ありがとうございます。

私は70号から毎月隅々まで、丁寧に読ませていただいています。

いろいろな行事の紹介や案内、2ヶ月先迄の予定や、各部の活動発表、例会だよりまで全て記載されているので、月例ウォーキングに参加出来なかった時でも読ませて頂くと、様子が想像出来ますので、私は毎月楽しみに待っています。

101号からもよろしくお願い致します。

ボクが健歩会に入会したワケ(1)

3班 松下晴一

リタイア後“自由がありすぎて扱いに困る”事のない様にと、従来の職業や趣味とは別に、新たに未知の分野での活動が願望でした。その一つとして選んだ機関で“地域活動の担い手となる人材を養成します”、との目的で受講学習をしました。その後、縁あってH市教委会で活動の機会を得ることができ、現在も継続中です。

しかし、地元京都でお世話になりながら何一つ還元できず、他府県での活動には一抹の後ろめたさも感じていました。丁度その頃、出先でウォーキング中の当健歩会のメンバーの皆さんに出会いました。

この時は、地元で「こんな会があるんだなあ」という程度で時が流れて行きました。

それから数年後、公民館にて健歩会養成講座の開講を知りました。

当時は脚力に多少の自身があると錯覚して、早速申し込み通年の学習を無事終了し、第6期生として入会させていただきました。

現在感じることは、何故もっと早く入会しなかったのかとの思いで一杯です。

これも人生の数多い後悔の内の一つです。

あとは、戦力外通告等を受けるまでは、道草をしながら、鈍足でこの道をウォーキングして行きたく思っています。この続き(?) は会報200号記念号にて寄稿させていただければと願っています。よろしくお願ひします。